

業績と財務状況

業績

損益の状況 (SMFG連結)

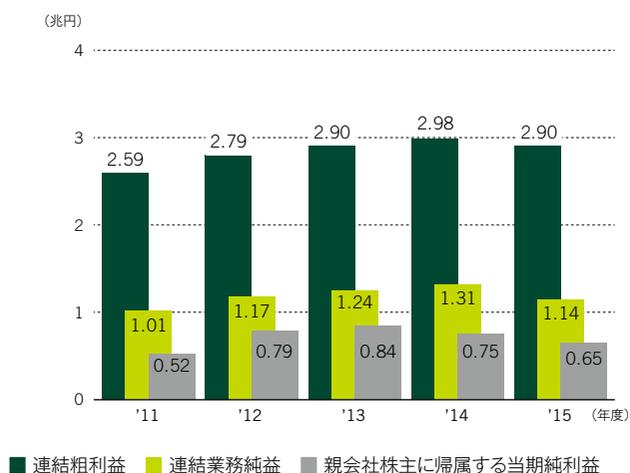
	2014年度	2015年度	2014年度比
連結粗利益	29,804	29,040	▲764
営業経費	▲16,593	▲17,248	▲655
持分法による投資損益	▲106	▲362	▲256
連結業務純益	13,105	11,429	▲1,675
与信関係費用	▲78	▲1,028	▲950
株式等損益	667	690	+23
その他	▲482	▲1,239	▲757
経常利益	13,212	9,853	▲3,359
親会社株主に帰属する当期純利益	7,536	6,467	▲1,069

(参考) 損益の状況 (SMBC単体)

	2014年度	2015年度	2014年度比
業務粗利益	16,343	15,343	▲1,000
経費*1	▲7,912	▲8,055	▲143
業務純益*2	8,431	7,288	▲1,143
与信関係費用	801	32	▲769
株式等損益	526	353	▲173
その他	▲198	▲194	+4
経常利益	9,560	7,479	▲2,081
当期純利益	6,430	6,092	▲338

*1 臨時処理分を除く *2 一般貸倒引当金繰入前

▶ 連結粗利益 / 連結業務純益 / 親会社株主に帰属する当期純利益 (SMFG連結)



連結業務純益

連結粗利益は、三井住友カードにおけるクレジットカード関連収益が増加した一方で、三井住友銀行において貸出金利息や有価証券利息配当金が減少したことに加え、預金利息が増加したこと等により、資金利益が減益となったことや、SMBC日興証券において外国債券や投資信託の販売が伸び悩んだことを主因に、前年度比764億円減益の2兆9,040億円となりました。

営業経費は、三井住友銀行等においてトップライン収益強化に向け引き続き経費投入を行ったこと等により、前年度比655億円増加の1兆7,248億円となりました。持分法による投資損益は、昨年3月に新たに持分法適用会社となった東亜銀行の収益寄与があった一方、市場価格の下落によりバンク・タブンガン・ベンシウナン・ナショナルに係るのれんを減損したことを主因に、前年度比256億円減益の362億円の損失となりました。

以上の結果、連結業務純益は、前年度比1,675億円減益の1兆1,429億円となりました。

与信関係費用

与信関係費用は、三井住友銀行における貸倒引当金戻入益の縮小等により、前年度比950億円増加の1,028億円の費用となりました。

株式等損益

株式等損益は、前年度比23億円増益の690億円の利益となりました。

経常利益

上記に加え、利息返還損失引当金の計上等により、経常利益は、前年度比3,359億円減益の9,853億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益

親会社株主に帰属する当期純利益は、経常利益に特別損益および法人税等を加減し、前年度比1,069億円減益の6,467億円となりました。

財政状態

連結貸借対照表 (SMFG連結)

(億円)

	2015年3月末	2016年3月末	2015年3月末比
資産	1,834,426	1,865,858	+31,433
うち貸出金	730,682	750,661	+19,978
うち有価証券	296,337	252,644	▲43,692
負債	1,727,463	1,761,382	+33,919
うち預金	1,010,479	1,106,688	+96,209
うち譲渡性預金	138,259	142,504	+4,245
純資産	106,963	104,477	▲2,486

金融再生法開示債権 (SMFG連結)

(億円)

	2015年3月末	2016年3月末	2015年3月末比
金融再生法開示債権 (A)	11,748	9,927	▲1,820
正常債権	834,756	855,794	+21,038
合計 (B)	846,503	865,722	+19,218
不良債権比率 (A / B)	1.39%	1.15%	▲0.24%

その他有価証券の評価損益 (SMFG連結)

(億円)

	2015年3月末		2016年3月末		2015年3月末比
	連結貸借対照表計上額	評価損益	連結貸借対照表計上額	評価損益	
株式	40,660	20,543	35,119	15,730	▲4,813
債券	136,996	500	108,931	1,092	+592
その他	84,979	5,006	87,285	2,253	▲2,753
合計	262,634	26,050	231,334	19,075	▲6,975

注：「現金預け金」中の譲渡性預け金および「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めています。

貸出金

貸出金は、三井住友銀行において、国内法人向け貸出および米州を中心とした海外貸出が増加したこと等により、前年度末比1兆9,978億円増加して75兆661億円となりました。

預金

預金は、三井住友銀行において、国内預金が、個人預金、法人預金ともに増加したことに加え、海外での業容拡大に伴い海外預金が増加したこと等から、前年度末比9兆6,209億円増加して110兆6,688億円となりました。また、譲渡性預金は、前年度末比4,245億円増加して14兆2,504億円となりました。

金融再生法開示債権

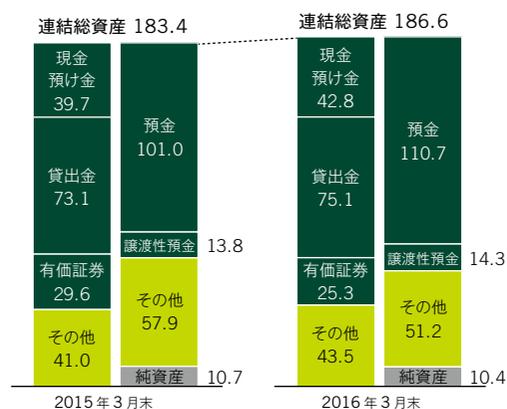
金融再生法開示債権は、前年度末比1,820億円減少して9,927億円となりました。その結果、不良債権比率は前年度末比0.24%低下して1.15%となりました。

有価証券

有価証券は、前年度末比4兆3,692億円減少して25兆2,644億円となりました。また、その他有価証券の評価損益は、前年度末比6,975億円減少して1兆9,075億円の評価益となりました。

▶ 連結貸借対照表 (SMFG連結)

(兆円)



業績と財務状況

自己資本の状況

連結自己資本比率（国際統一基準）の状況（SMFG連結）（億円）

	2015年3月末	2016年3月末	2015年3末比
普通株式等Tier1資本	74,765	77,965	+3,200
その他Tier1資本	10,521	12,352	+1,831
Tier1資本	85,286	90,317	+5,031
Tier2資本	24,373	22,043	▲2,330
総自己資本	109,659	112,359	+2,700
リスクアセット	661,368	660,116	▲1,252
普通株式等Tier1比率	11.30%	11.81%	+0.51%
Tier1比率	12.89%	13.68%	+0.79%
総自己資本比率	16.58%	17.02%	+0.44%

完全実施基準（2019年3月末に適用される定義に基づく）

普通株式等Tier1資本	79,177	79,010	▲167
普通株式等Tier1比率	12.0%	11.9%	▲0.1%
（その他有価証券 評価差額金を除く）	9.0%	9.9%	+0.9%

自己資本額

親会社株主に帰属する当期純利益の計上等により、普通株式等Tier1資本は前年度末比3,200億円増加の7兆7,965億円、総自己資本は前年度末比2,700億円増加の11兆2,359億円となりました。

リスクアセット

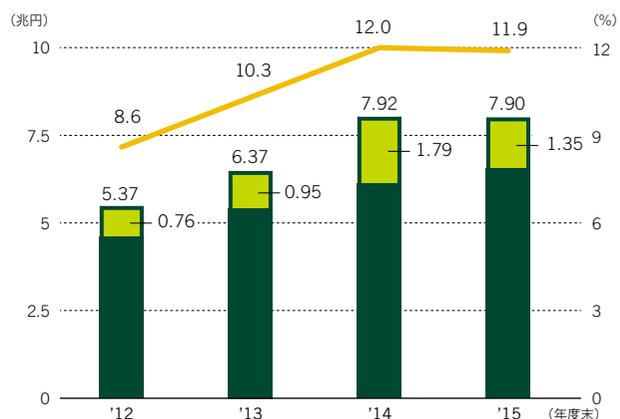
2016年3月末のリスクアセットは、国際部門において米州・欧州を中心にアセットを投入した一方、円高の影響等もあったことから、前年度末比1,252億円減少し、66兆116億円となりました。

自己資本比率

2016年3月末の普通株式等Tier1比率は、前年度末比0.51%上昇の11.81%、総自己資本比率は前年度末比0.44%上昇の17.02%となりました。

なお、完全実施基準（2019年3月末に適用される定義）に基づく普通株式等Tier1比率の試算値は前年度末比0.1%低下の11.9%となっています。

▶ 普通株式等Tier1比率（完全実施基準）（SMFG連結）



■ 普通株式等Tier1資本 (■ うち、その他有価証券評価差額金) (左軸)
— 普通株式等Tier1比率 (右軸)

配当の実績

当社は、健全経営確保の観点から内部留保の充実に留意しつつ、資本効率を意識し、成長投資によって高い収益性と成長性を実現することで、持続的な株主価値の向上を図り、1株当たり配当の安定的な引き上げに努めることを基本方針としております。

上記方針のもと、当年度の普通株式1株当たりの配当金につきましては、前年度比10円増配の150円といたしました。

▶ 普通株式1株当たり配当金

